

1. 栃木県宇都宮市

- ・視察者 藤倉憲、佐藤恵一
- ・視察場所 芳賀・宇都宮ライトライン
トナリエ宇都宮オープンスクエア 3F
- ・視察日時 令和6年11月11日（月）午後2時～午後4時30分
- ・視察項目 LRT(ライト・レール・トランジット)について
- ・説明員 宇都宮市建設部 LRT 管理課課長補佐 北岡有介 氏
宇都宮市建設部 LRT 整備課協働広報室主任主事 高橋亮太 氏
宇都宮市議会事務局政策調査課主任書記 中村駿介 氏
- ・視察目的 先進的公共交通の整備と活用の仕方、管理運営の仕組みを学ぶこととで本市の公共交通の取組に生かす。

・要旨（報告事項）

〔視察先概要〕

視察先： 宇都宮市 芳賀・宇都宮ライトライン

説明場所： 宇都宮市 トナリエ宇都宮オープンスクエア 3F

人口： 511,519人 (R6.4,1)

世帯数： 237,764世帯 (R6.4,1)

令和6年度当初予算（千円）

一般会計：229,650,000（自主財源57%）

特別会計：124,006,574

企業会計：51,168,891

財政力指数：0.98（令和4年度3カ年平均）

ゼロからの挑戦

100年先も持続的に発展し続けられるまちの土台、ネットワーク型コンパクトシティ（NCC）

人口減少や少子化・高齢化、脱炭素社会への移行などの社会環境の大きな変化に的確に対応するための将来の都市構造として、全国に先駆けて「ネットワーク型コンパクトシティ」（NCC）の形成に取り組んだ。

路面電車の文化のない地域でのゼロからの挑戦だったが、国や県、地域の住民、企業、公共交通事業者、学識経験者など多くの支援と協力があり開業を迎えることができた。

今後はライトラインをフル活用し、その効果を最大限に発揮させ50年先100年先も持続的に発展できるまちを実現する。

運転開始：2023年8月26日（開業式・発車式を開催）

事業概要：

営業キロ 宇都宮芳賀ライトレール線

約14.6km（複線）（宇都宮市域12.1km、芳賀町域2.5km）

宇都宮駅東口（宇都宮市）～芳賀・高根沢工業団地（芳賀町）

事業方式 公設 型上下分離方式

事業費 684億円（宇都宮市域603億円・芳賀町域81億円）

低床式車両の導入（17編成）

定員 159人（座席50席）

最高速度 70km/h

車両事業費 約73億円

運営主体：宇都宮ライトレール株式会社

設立：2015年11月9日

資本金：10億円

出資構成：行政51% 民間49%

営業主体の確保方針：LRT事業の営業主体については宇都宮市と芳賀町が主体的な役割を担う「官民連携による新会社」を設立した。

全国の軌道事業者に対して、運転士の養成を含む技術協力等を正式に要請し、国、県、地元交通事業者、経済界などに対して、新会社への出資等について要請。

車両や軌道等の施設を行政（宇都宮市・芳賀町）が整備・保有し、民間事業者（宇都宮ライトレール）がそれらを借り受け運行を担う「公設型上下分離方式」を採用。

軌道の運送に必要な「乙種電気車運転免許」を取得するため、運転士を全国の軌道事業者に派遣し養成を行った。

整備効果：ライトライン沿線人口 約5,000人（8%）増加

ライトライン沿線人口の社会増 約1,300人転入超過

ライトライン沿線の地価 商業地 約6%上昇

住宅地 約11%上昇

清原工業団地における新規投資額 約1,100+ α 億円

移住相談件数 約10倍に増加 R2:55件 ⇒ R5:556件

移住者数 約14倍に増加 R2:26人 ⇒ R5:364人

移動にかかる満足度の変化（満足）（やや満足）

通学者約58ポイント増加

通勤者約19ポイント増加

買い物・通院など約59ポイント増加

子育て世代・車いす利用者など約43ポイント増加

脱炭素化の推進（ゼロカーボントランスポート）

ライトラインは、家庭ごみの焼却や家庭用太陽光等により発電された地域由来の再生エネルギー100%で走行する「ゼロカーボントランスポート」を実現している。

取組の歴史

- | | |
|-------------|----------------------------------------------|
| 1992年（平成4年） | 「第2回宇都宮都市圏パーソントリップ調査」実施
⇒東部地域の交通実態を把握 |
| 1993年（平成5年） | 「新交通システム研究会」設置
⇒新交通システム導入検討開始 |
| 1996年（平成8年） | 「宇都宮都市圏都市交通マスタープラン」策定
⇒新たな公共交通システムの必要性を提案 |
| 1997年（平成9年） | 「新交通システム検討委員会」設置 |

2000年（平成12年）	⇒東部地域への導入可能性を検討 「新交通システム導入基本方針」決定 ⇒LRTの導入を基本とする検討開始
2003年（平成15年）	「新交通システム導入基本計画策定調査（国・県）」において、まちづくりや総合的な交通施策と一体的に新たな基幹公共交通となるLRTの異本的な考え方、課題等を取りまとめた。
2023年（令和5年）	開業記念式典・開業（8月26日）

・視察結果、所感

100年先も持続的に発展し続けられるまちを基本的な考え方として、地域の変化や時代の変化を先取りして、まちづくりの視点から路面電車の文化のない宇都宮地域でLRTに着目し、1992年から調査や議論を重ね31年の歳月をかけて新設でLRTを開業したことは凄い一言に尽きる。特に設計などもできるだけ内製化を図り、総合的なコンサルタントは活用せず行政・市民・企業・学校など官民が連携・協力しながら事業を進めてきたことは地域力・行政力の高さを感じた。当市においても高齢化が進む中、今まで以上に公共交通の充実が望まれているが、事業計画作成時における課題の整理と将来の在り方をまちづくりという大きな視点でとらえることが重要と本視察を通じて強く感じた。当市と宇都宮市では行政規模が違うが、100年先も持続的に発展していくための視点など、考え方や官民連携の手法などは参考にできると考える。